

ワーケーション実証費用助成額に対して市内消費額は約3倍の消費効果が判明

～令和4年度ワーケーション実証費用助成金 新規受付終了に伴う中間報告（4月～11月）～

富良野市は、第6次富良野市総合計画に基づく関係人口創出を図る施策、令和4年度「ワーケーション実証費用助成金」の11月末時点の予算執行額（予算額：1,750千円）が92%となり、今後（1月～3月）の実証予定も11名を見込むことから、今年度の新規受付を終了しました。新規受付終了に伴い4月～11月の実証結果をお知らせします。当該期間中のワーケーション実証者52名に対して支払った助成額（1,610千円）に対して、市内消費額（4,917千円）で約3倍の消費効果、市内外消費額（6,093千円）で約3.8倍の消費効果となり、本市でのワーケーション実証は市内及び周辺地域への消費効果が高いことが判明しました。

ワーケーション実証費用助成金の制度内容

市外の社員等【企業・団体の役員・社員（職員）又はフリーランス・個人事業主】（日本国内に住所を有し、居住実態がある者）が、本市の宿泊施設に4泊以上滞在し、テレワークや研修などの仕事と余暇を両立したワーケーションを実証した場合、市内の宿泊費及びレンタカー利用料の一部を助成。

ワーケーション実証費用助成金の主な結果（令和4年4月～11月）

■実証者の75%が会社員、25%が個人事業主

企業のテレワークが在宅勤務のほか、働く場所を選ばないロケーションフリーワークの広がりなどを背景に会社員の利用が拡大。

■実証者の居住地は首都圏からが7割を超え、東京都からの実証者が最多

東京都からが23名、続いて神奈川県8名、埼玉県が5名。

■宿泊総日数273泊、一人平均5.25泊、7割が同一宿泊施設に滞在

平均宿泊日数5.25泊、7割が同一宿泊施設に滞在。3割が宿泊施設の比較、滞在環境の変化を求めるなど複数の施設に滞在。

■宿泊総支払額2,842,000円、一人平均55,000円、約6割がホテル利用

一人当たりの宿泊支払額は55,000円で、約6割がホテルを利用していたが、家族の帯同がある実証者や特に女性の実証者は、外食コストや健康面から調理ができるキッチン付きのコンドミニアムや民泊等のニーズが高かった。また、単身の若年実証者を中心に安価で市街地に立地するホステルの利用も目立った。

■市内の消費額4,917,700円、市外の消費額1,175,000円、市内外の消費合計額6,093,200円

一人当たりの市内消費平均額95,000円、市外消費平均額23,000円、市内外消費平均額118,000円。主な市内消費は宿泊、飲食、お土産、アクティビティ、主な市外消費はレンタカー、ガソリン、飲食、アクティビティ、温泉、お土産が占める。

■5割がレンタカー利用、同乗者含めると9割が利用

24名がレンタカー利用。同乗者を含めると9割が滞在中にレンタカー（自家用車含む）で移動するなど二次交通に寄与。

■4割が市からモニターの貸与

19名が市からモニター貸与により、リモートワーク業務の効率化・生産性向上に寄与。利用者からは当該サービスに高い評価。

■今回の調査を通じて

令和4年度は、コロナ禍による国や都道府県からの圏外移動の自粛要請が無かったことや企業のテレワークも働く場所を選ばないロケーションフリーワークの浸透などを背景に当該助成金を利用する実証者は堅調に推移しました。利用者からは、①宿泊施設のWi-Fi及びデスクやイスのワーク環境充実、②民間施設のWi-Fi環境改善、③オンライン会議等ができる個室ブースの設置、④レンタカー以外の移動手段（レンタサイクル等）の充実を求める声をいただくなど課題も見えてきました。今後、こうした課題解決や地域への消費効果アップに加え、さらなる副次的な効果を生み出すために、①ワーケーション実証者の新規開拓とリピート率向上などの関係性強化、②移住や二拠点居住、サテライトオフィス誘致に繋がる仕掛け、③地元事業者との交流・ビジネス機会の創出、④企業社員の人材育成研修、チーム合宿の受入、など関係者の協力のもと取り組んで参ります。



<報道関係の方からのお問い合わせ先>

富良野市総務部企画振興課企画振興係 担当：松野 TEL：0167-39-2304 MAIL：matsuno.kengo@city.furano.hokkaido.jp